

平成21年度 病害虫発生予察情報 注意報第1号

平成21年4月2日
島根県

タマネギべと病の越年罹病株が県下各地で認められ、発病株率の極めて高い圃場も確認されています。今後気温の上昇に伴い、越年罹病株上には多数の胞子が形成され、病勢の急速な進展が懸念されますので、注意報を発表します。
現地では発生状況を把握し、発病株の抜き取り等、防除対策の徹底をお願いします。

記

1. 作物名 タマネギ
2. 病害虫名 べと病
3. 発生地域 県下全域
4. 予想発生量 やや多い～多い



5. 注意報発表の根拠
 - 1) 3月下旬の巡回調査では、越年罹病株の発生圃場率が16.7%（平年12.6%）と平年を上回っており、1万株当たりの発病株数は6.8株（平年1.0株）と過去10年間で最も多い。
 - 2) 越年罹病株には今後胞子が多量に形成され、これが伝染源となり、急激な二次感染が起こることが予想される。
 - 3) 今後の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。
6. 防除対策および防除上の注意事項
 - 1) 一般的に、越年罹病株が1万株当たり1株（10a当たり3株程度）以上あるとまん延に十分な量の胞子が形成され、二次感染が活発化し、鱗茎肥大期には多発生になるとされる。
 - 2) 逆に、越年罹病株の早期除去によりまん延の防止が可能となるので、抜き取りを徹底する。
 - 3) 越年罹病株に胞子の形成が認められた場合には、感染拡大防止のため、直ちに薬剤による防除を行う。

7. 薬剤防除

1) 種類および濃度

(薬剤名)	(使用基準)
* リドミルMZ水和剤 500～750倍	収穫 7日前まで / 3回以内
* リドミル銅水和剤 400～600倍	収穫 7日前まで / 3回以内
* フォリオブラボ顆粒水和剤 1,000倍	収穫 7日前まで / 3回以内
プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍	収穫 7日前まで / 3回以内
フェスティバルM水和剤 750～1000倍	収穫 7日前まで / 3回以内
フェスティバルC水和剤 600～800倍	収穫 7日前まで / 3回以内
ホライズンドライフロアブル 2,500倍	収穫 3日前まで / 3回以内
カーゼートPZ水和剤 1,000倍	収穫 3日前まで / 3回以内
ランマンフロアブル 2,000倍	収穫 7日前まで / 4回以内
ヨネポン水和剤 500倍	収穫 7日前まで / 5回以内
ビスダイセン水和剤 400～600倍	収穫 21日前まで / 3回以内
ダコニール1000 1,000倍	収穫 7日前まで / 6回以内
フロンサイド水和剤 1,000～2,000倍	収穫 7日前まで / 5回以内
** マンゼブ水和剤 400～600倍	収穫 3日前まで / 5回以内

注) *印の薬剤はフェニルアマイド系薬剤である。耐性菌を出現させないために、これら薬剤の連用および輪用を避ける。
**印の薬剤名は一般名であり、該当薬剤は複数あることから、使用に当たっては登録内容をよく確認する必要がある。

なお、薬剤の使用に当たっては、農薬の使用基準ならびに本県農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。

(参考資料)

発生病害虫の特徴

べと病とは
タマネギべと病菌 (*Peronospora destructor* ペロノスポーラ デストラクター) というかびの一種によっておきる病害で、感染力が強いことからタマネギ栽培では最も恐れられている病害である。

1) 症状
本病の感染時期は秋と春の2回あるが、秋の感染では直ちに症状が出ることはなく、3月下旬頃になって、前述のとおり株全体の退色黄化、外葉の湾曲、生育遅延等が起こる(越年罹病株)。



春、越年罹病株から感染した発病株(二次感染株)では、葉に黄色がかった楕円形の大きな斑点ができ(写真2)、やがて葉が枯死する。

湿度が高いと病斑上には白い霜状の胞子が形成され、感染を繰り返し、株は枯死に至る。

写真2 べと病二次感染株の病斑

2) 伝染方法
被害葉などとともに土壤中に生存するべと病菌が、秋、育苗期間中のタマネギ苗に感染する。3月下旬ごろになって葉が湾曲して株全体が黄色くなり(越年罹病株)、後に株上に分生胞子とよばれるかびの胞子を大量に形成する。
ここから飛散した分生胞子が健全な株に伝染して、二次感染を起こす。(4月下旬頃)
二次感染株に分生胞子を形成し、さらに感染が広がる。(5月上旬以降~収穫期)

防除対策

越年罹病株を抜き取ることが最も確実な方法である。

ただし、べと病菌は感染力が強いため、1万株に1株、このような株が残っていても二次感染を繰り返すことで、収穫期には多発生となる。

このため、越年罹病株に分生胞子が形成され始めると、薬剤による防除が必要不可欠となる。

本県における過去のタマネギべと病注意報発表状況(警報の発表は無し)

年 度	発表月日	発表時の状況
平成 14年	5月1日	発生圃場率33.3%、平均発病株率2.4%
20年	5月1日	発生圃場率22.7%、平均発病株率6.2%